



計算機部

も く じ

呉高専の将来像 呉高専後援会の活動について 災害時における学生の安否確認について	(校長 遠藤一太) …1 (後援会長 堀本 巧) …1 (教務主事 森脇武夫) …2	新任教員紹介 (人文社会系分野 蒲地祐子) …10 (自然科学系分野 平松直哉) …10 (環境都市工学分野 加納誠二) …11 (建築学分野 光井周平) …11
学内に喫煙所を設置しました 学生の進路指導 (SAPAR)	(学生主事 宇根俊範) …2 (教務主事補 林 和彦) …3	国際交流 ・それは遙か遠い昔、人類が交わした約束 (国際交流室長 竹内準一) …12 ・16年目を迎えた里親会 (里親会代表 海生郁子) …13
トピックス ・1年の留学を終えて ・剣道部4年連続全国大会出場 ・呉学生将棋名人戦および同好会活動の報告	(建築学科3年 柳川かえで) …3 (剣道部顧問 岩城裕之) …4 (電気情報工学科1年 竹寄幸之助) …4	市民セミナー ・4年目のエジソンスクール (電気情報工学分野 横沼実雄) …13
・2011年度夏の学校見学会 ・女子中学生なんでも相談会 ・専攻科1年生「インターンシップ事前研修会」	(教務主事補 大和義昭) …5 (教務主事補 佐々木伸子) …5 (専攻科機械系コース担任 野村高広) …6	・実験で調べてみよう！夏でも涼しい家 (建築学分野 大和義昭) …14 ・井伏鱒二の文学を読む (人文社会系分野 外村 彰) …14
・「中四国地区高専専攻科生研究交流会」に専攻科生4名が ・ブックハンティング ・2年目の「おもしろ科学体験フェスティバル」	参加了！ (専攻科機械系コース担任 野村高広) …6 (図書館長 笠井聖二) …7 (教務主事補 大和義昭) …7	嶺陽寮 ・嶺陽寮自慢 (機械工学科5年) …15 ・寮で過ごして (環境都市工学科4年) …15
・呉・芸南学の開設 ・球技大会 ・安全標語受賞者の表彰式	(教務主事補 佐々木伸子) …8 (学生主事補 佐賀野 健) …9 (庶務室長 佐藤 等) …9	学生相談室から ・学生相談室から (学生相談室長 岩城裕之) …16 ・カウンセラー講話 (学生相談室 篠崎律子) …16 第47回中国地区高等専門学校体育大会成績 …17 安全・安心な食堂運営を心がけています 寮食堂・学生食堂・売店店長 志磨 徹也…18

呉高専の将来像

校長 遠藤 一太

間もなく高等専門学校制度創設 50 周年を迎えます。2012 年には「進化する高専」をキャッチフレーズに、全国の国公私立高専が連携して 50 周年記念行事を行う予定です。下の図は記念ロゴとシンボルマークです。高専の将来像をうまく表現していると思います。



呉高専の創設された 1964 年は東京オリンピックが開催され、東海道新幹線が開通した年、つまり工業化による高度成長経済の真っ只中でした。機械工学、電気工学、建築学の 3 学科でスタートした呉高専は、1969 年に土木工学科を加え、その後、2 度の学科改組と専攻科設置を経て現在の姿になりました。

今や、日本を含む先進諸国では従来型の経済発展が望めない時代となっています。しかし、全地球的には急激な人口増加が続いており、食料増産、エネルギー確保、環境改善など、取り組むべき課題は山積しています。「人類社会の持続可能な発展」をめざす技術者を育てることは先進国の責務であるといえるでしょう。

呉高専は今後とも社会の期待に応えることができるでしょうか？ 中堅教員を中心とする将来計画ワーキンググループは、本校各学科の教育の将来について議論しました。その結果は、当面 4 学科構成を維持しつつ学科間の交流を促す仕組みを導入し、上級学年から専攻科にかけては学科の専門だけに拘らずに複合・融合・新領域の教育を導入するというものです。この答申を受けて、今年度は、教育内容だけでなく予算、人員配置、移行スケジュールなど具体的検討を急ピッチですすめていきます。

「進化した呉高専」の学生は、自分の得意な「専門分野」をもちつつ、国際経験や他分野を専門とする若者との協働経験をつみ、人類社会の多様な面白さを学びます。そして、卒業後はヒトに役立つモノやシクミをつくる創造的技術者として力を発揮するでしょう。

呉高専後援会の活動について

呉高専後援会長 堀本 巧



平成 23 年度呉高専後援会会長という大役をお引き受けすることになりました。何かと至らないことが多々あるとは思いますが、ご指導のほどよろしく願い申し上げます。

今年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北から関東に至る広範囲に甚大な被害をもたらし、多くの方々が被災されました。被災された方々にはお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々には、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。呉高専後援会といたしましても、高専機構を通じ、被災された高専に対して、後援会会費の中から義援金 20 万円を送らせていただきました。

さて、呉工業高等専門学校後援会は、本校における教育の充実や振興に寄与すること、併せて会員相互並びに会員と学校の協調を図ることを目的として、昭和 39 年 4 月開校時から様々な諸活動を行っております。

後援会の主な事業は、私達の子供達が本校での学生生活を有意義に送るための支援・援助として、学習や野外活動に対する助成事業、学生福利厚生に関する助成事業、就職斡旋、生活環境の整備などの援助活動となっています。更に、3 年前からは後援会役員が中心となり、高専祭の時に保護者の皆様に無料のおでん券を配布したり、2 月のマラソン大会には温かいぜんざいを子供たちに用意するといった活動もしています。

これからも後援会活動に対して、ご意見、ご要望がございましたらお聞かせ下さい。保護者の皆様も、是非学校に足を運んでいただき、子供たちを見守り、応援していただけますよう、ご協力よろしく願い申し上げます。

災害時における学生の安否確認について

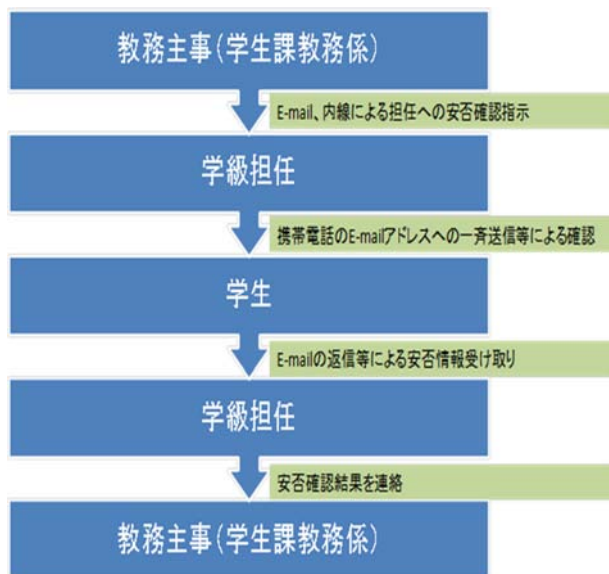
教務主事 森脇 武夫

本年3月11日に発生した東日本大震災において、東北、関東の広い範囲では甚大な被害を受け、現在もなお多くの被災者が不自由な生活を強いられています。西日本においても近い将来、東南海、南海地震の発生が懸念されており、いつ大災害が起きても不思議ではなく、十分な準備と心構えが必要です。そして、万が一、このような災害が発生した場合に、学生の安否確認や緊急連絡を行えるようにしておくことが重要です。

本校ではこのような場合には、下図に示すようにクラス担任を通じて学生の安否確認を行うことになっていますが、大災害時にはクラス担任自身が被災してクラス担任を通じての安否確認が行えない場合も想定できます。そこで、本校では全学生の携帯電話の番号およびe-mailアドレスの登録を行い、クラス担任を通じての安否確認が行えないクラスについては学生課から直接学生へ安否確認が行えるようにしました。

なお、学生へ連絡する際には他人にメールアドレスや電話番号が分からないようにするとともに、連絡先データはネットワークとは切り離して保存し、個人情報漏えいしないように管理しています。

【通常の安否確認手順】



学内に喫煙所を設置しました

学生主事 宇根 俊範



喫煙指定場所

- ★喫煙登録を済ませていること。
 - ★学生証あるいはtaspoを携帯していること。
 - ★ゴミを出さないこと。
 - ★早期に禁煙を達成すること。
- 学生主事

今年度、新しく学内に喫煙所を2箇所設置しました（もちろん、利用者は成人学生限定です）。長年、成人学生と言えども学内での喫煙は禁止していましたが、それがもとで休憩時間ともなると正門はじめ各門では喫煙学生が数人喫煙する姿が垣間見られました。あまりにも見苦しく、どうにかしなければならぬという思いから苦渋の決断ではありましたが、学内に喫煙所を設置するに至ったわけであり、学校の正面玄関とも言えるべき正門で数人が喫煙し、またタバコの吸殻が数本落ちている光景はこれではなくなりました。

喫煙所の設置にあたってはほかの学生への影響も考慮し、できるだけ他の学生が近づかない場所を選び、東門付近の車庫の隣と専攻科棟の南部分としました。喫煙所の設置は世の趨勢に逆行する動きのようでもあります。今回の設置によって成人学生の喫煙者を把握し、それらの学生に禁煙啓蒙を行うことで、禁煙教育を本当に実りあるものになりたいと思っております。学内に喫煙者は皆無という本当の意味での「全面禁煙」に向けての第一歩となると確信しています。

学生の進路指導 (SAPAR)

教務主事補 林 和彦

大学生の就職活動が厳しさを増す一方で、高専の就職状況の良さが益々際立ってきています。呉高専でも、8月の段階で殆どの学生が就職先を決めています。就職状況の良さから、多くの企業が高専生を求めていることを窺い知ることができます。

高専では、担任を中心に進路指導を教員が行います。同じ学生を5年間見てきた教員だからこそできるきめ細かい指導が高専にはあります。この強みは大学では決して真似をすることができません。また、呉高専では、学生の進路指導として、SAPAR という5年一貫のプログラムを実施しています。学生自ら自分の進路を決定できるように、低学年から進路指導を行っています。SAPARの全体指導と担任の個別指導の両輪で、学生をサポートしています。

4月以降、前期に実施されたSAPAR関連の主な行事は下記の通りです。

- 4月 面接リハーサル(5年生対象)
- 4月～7月 自己分析(2年生対象)
- 6月 就職準備セミナーⅠ(4年生対象)
- 6月 SPI模擬試験(4年生, 専攻科1年生対象)
- 7月 編入学対策セミナーⅠ(3,4年生対象)

後期にも、適性検査(2年生)、自己分析(3年生)、SPI模擬試験(4年生, 専攻科1年生)、就職準備セミナーⅡ,Ⅲ(3,4年生)、編入学対策セミナーⅡ(3,4年生)を予定しています。また、1月には昨年同様に合同会社説明会を開催し、企業の方と学生が直接情報交換を行える場を設ける予定です。学生の皆さんは、SAPAR関連の行事を利用して、進路の情報を収集して、納得の行く進路を決定して下さい。

1年のドイツ留学を終えて

建築学科3年 柳川 かえで

約2年前、私がドイツに留学を決めたきっかけは、ちょうどその頃一目惚れした、あるバロック建築の宮殿でした。本当に、そんな些細なきっかけだったのです。

そんな私を出迎えたのは、期待を裏切らぬドイツの風景でした。街並み、食べ物、人々、騒音、匂い…何もかもが今までとまるで違う、別世界。言葉もわからぬ異郷の地で、人々の優しさに助けられながら、私は見るもの、感じるものすべてを吸収してきました。例えば、何時間もかけて朝食をとる方法。“何もしない”日曜日の過ごし方。例えば、どこまでも平らな草原。ロバや七面鳥がいる庭。例えば、どの街にも二つずつある教会。色とりどりの、三角屋根の家。授業の合間には街に行ったり、公園を散歩したり、休み時間には大きな木の下で友達とじゃれあいながら、ソーセージとチーズを挟んだパンをかじりました。

なぜあの日々は、私の中でこんなにも輝いているのでしょうか？苦しいことも、泣いたこともあったのに、それらは今、大切な時間の一つとして思い出されるのです。多くの人に支えられて、本当に大切なことを学びました。感謝すること、時間を守ること、笑っていること…。そしてこの、私がドイツで得てきたもの、私たちが過ごしたすべての時間や経験はこれからもずっと、私の心を勇気づけ、私を輝かせてくれるような気がするのです。



教会でのクリスマスパーティー

剣道部 4年連続全国大会出場

剣道部顧問 岩城 裕之

7月9日、10日、尾道市のびんご運動公園で行われた、中国地区高専体育大会で、剣道部は4年連続での全国大会出場の切符を手にししました。男子団体戦での優勝は、昨年に続いて2年連続となります。

(その前は、中国地方から全国大会へ2校出場できたため、準優勝で全国へ行っていました)

ちょっと危うい場面もありましたが、最後の集中力と、呉高専らしい綺麗な剣道で、勝ち進んでいったのではないのでしょうか。

さらに男子個人の部でも機械工学科5年の廣瀬君が優勝、同じく機械工学科4年生の佐藤君が3位に入賞しました。全国大会への切符、中国地方3名の枠のうち、2名を呉高専で占めることができました。

剣道部では、今年度から新たに環境都市工学科の加納先生を顧問に迎えました。加納先生は現役で剣道をされていることもあり、剣道部の体制が整ってきた感じがあります。将来が楽しみなところです。

また、保護者の方々の応援も毎年いただいています。これも学生たちの励みになっているものと思います。非常にありがたいことです。

全国大会は8月28日、新潟県長岡市で開催されます。昨年度は全国大会準優勝、今年はもちろん頂上(てっぺん)目指してがんばります。



中国地方大会表彰式のあとで

呉学生将棋名人戦 および同好会活動の報告

将棋同好会(電気情報工学科1年) 竹寄 幸之助

私は、呉高専将棋同好会に所属しています。5月8日(日)の第16期呉学生将棋名人戦高校生の部に、同好会メンバー3名と共に参加し、私は初めて優勝する事ができました。今回、呉学生将棋名人戦と呉高専将棋同好会の活動について、寄稿致します。

私は、小学5年生の初参加から通算6回目の出場で、初めて優勝し名人の座に就く事が出来ました。過去3回準優勝の経験がありましたが、いずれも同学年の人に敗れたものでした。今回の結果は、勝つ事の出来ない理由を自分なりに考え、試行錯誤を繰り返してきた成果だと思います。ただ、この結果に満足する事無く、更に強くなれるように努力を重ねて参ります。

一方、私が所属する将棋同好会では、1年生10人余りが中心となって活動を続けており、毎週2、3回集まって対局を行う事で棋力の向上に努めています。さらに対局後には感想戦を行い、対戦者と意見を出し合う事で先を読む力を鍛えています。また、毎月一度ほど「名人戦」と称してトーナメント戦を行い、互いの力を確認して、試合に勝つために互いに切磋琢磨しています。

現在は、次の公式戦でより良い結果を残せるように、練習を重ねています。同好会から部への昇格を目標として皆頑張っておりますので、応援をよろしくお願い致します。



2011 年度夏の学校見学会

教務主事補 大和 義昭



記録尽くめの暑さであった昨年と同様、今年の夏も大変な猛暑となりましたが、そのような暑さの中に本年度

の第一回目の夏の学校見学会が行われました。

ここ数年間、一回の見学会の見学者数は400人前後だったのですが、今年は570人を超える多くの方に学校見学会に参加していただきました。

あまりに多くの方に参加希望をいただきことから、会場に皆様を一度に案内することができなかつたため、急遽全体説明会を前半・後半の二部構成として来場者を分けさせていただいたほどでした。進路志望決定を控えた中学生の生徒さんが多数来られたことから、私たち教職員もうれしい手応えを感じました。

さて、肝心な見学会の内容ですが、今年も各学科の趣向をこらした企画・展示があったようです。また、昨年度から呉高専では特に女子の生徒さんに向けて高専をPRする取り組みをしておりますが、今年は会場内の一室で女子中学生さんに手芸など楽しんでもらいながら、本校女子学生が高専生活についての相談にのるという企画もありました。そして、見学会に参加された中学生の生徒さんや保護者の皆様には例年以上に熱心に見学していただいたようです。学校の雰囲気に触れてみたり、本校の学生と話してみたりして、どのように感じられたのでしょうか？

「あー、やっぱり呉高専に入りたい！」と欲していただけなのならよいのですが...

中学生の生徒さんや保護者の皆様にとって本校はまだまだよく分からないことがたくさんあると思いますので、見学会には是非たくさんの方に参加してほしいです。アンケートには見学会に対して多くのリクエストもいただきました。皆様の要望にお応えすべく、次回以降の見学会はよりパワーアップしてまいりたいと思います。

女子中学生なんでも相談会

教務主事補 佐々木 伸子

昨年度に引き続き、呉高専では「理系ゴコロのススメプロジェクト」に取り組んでいます。この活動は、敬遠されがちな女子の理系選択のイメージチェンジをはかり、自分の個性にあった進路選択ができるように支援することが目的です。この一環として、8月7日に行われた第1回学校見学会で「女子中学生なんでも相談会」を開きました。女子中学生が持つ高専への疑問や不安を女子高専生と話すことによって解決してもらおうというものです。ただ話すのではなく、「手芸をしながらおしゃべり」というのが今回の特徴です。作るモノは「高専で手芸はこうなる！」ということで、手のひらサイズの羊毛フェルトランプです。りんごの形をしたランプシェードを羊毛フェルトの手芸で、LEDライトをはんだごてを使った電気工作でつくってもらいました。これを教えてくれるのも高専の女子学生です。丁寧に教えてもらいながら器用にとっても小さな部品をはんだごてで接合していました。

また、手芸をする間は女子高専生との会話の時間です。高専女子の現状を在校生から聞けるので中学生だけでなく保護者の方も沢山質問していました。

今年、来年は、全国8高専と共同で「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信」に取り組む予定です。全国の高専女子学生が連携して「高専女子百科」というPR資料を編集します。これからますます元気な高専女子学生が活躍してくれそうです。



専攻科1年生 「インターンシップ事前研修会」

専攻科機械系コース担任 野村 高広

専攻科1年生は、夏休みを利用して、企業・大学・研究所・公的機関などで2～8週間のインターンシップを経験します。その事前勉強として、7月8日（金）の一日を使い、新人教育を専門とする2名の外部講師による研修会を開催しました。インターンシップで何をしたいのか、どうすれば有意義な内容になるのか、学生自身あるいはグループの中で考え、お互いの共通点を整理し、その結果を皆の前で発表し討論を行いました。また、社会人としてのマナーやビジネスコミュニケーションについても、グループ演習を通して確認しました。インターンシップに行く前に、各自のやるべき事柄が明確になったことと思います。インターンシップは、学生にしかできない貴重な体験です。しっかり事前の準備をして、実務経験を楽しんでください。

<研修会の講師>

亀井 隆佳 先生

(呉信用金庫 人づくりセンター グループマネージャー)

溝上 裕二 先生

(ジョンソンコントロールズ株式会社 ディレクター)



「中四国地区高専専攻科生研究交流会」に 専攻科生4名が参加しました！

専攻科機械系コース担任 野村 高広

毎年4月末頃に中国・四国地区の高専専攻科生を対象とした研究交流会が企画されます。今年は主管校の広島商船高等専門学校の皆様にお世話頂き、4月28日と29日の二日間にわたり広島国際会議場にて盛大に開催されました。通常参加する学会発表では、大学生や院生と混じっての発表・交流となりますが、この交流会の発表では、学校は異なりますが同じ専攻科の仲間のみということもあり意見交換もし易く、他校の専攻科生との交流を深める良い機会となったようです。呉高専からは、下記の専攻科生4名が参加しました。



【ポスター発表】

- 「多孔質内の乱流への遷移過程に関する研究」
川端 カイオ (機械電気工学専攻 機械系2年)
- 「多孔質内気液二相流の流動パターンに関する研究」
塩見 和也 (機械電気工学専攻 機械系2年)

【口頭発表】

- 「溝付き垂直層内の自然対流」
沖居 将 (機械電気工学専攻 機械系2年)
- 「ソレノイドを利用した尾ひれ推進船の泳動特性」
佐藤 太一郎 (機械電気工学専攻 機械系2年)

ブックハンティング

図書館長 笠井 聖二

前期中間試験が終わった7月27日の午後に、広島駅前のジュンク堂でブックハンティングを実施しました。ブックハンティングは、図書館に置きたい本を、本屋で学生が直接選ぶというものです。今回は4・5年のクラスから各2名と、学生会から文化委員長・副委員長が参加しました。



まずは、学生が「これは！」という本を選んできます。私の方で確認し、高専の図書館にそぐわない本や、内容が偏っている場合には、別の本を選ぶようにアドバイスします。そうすると、学生は「どうしてもダメですか」などと言いながら、また、違う本を探しにいきます。選ぶ本には専門書も含めることにしていますが、「専門書って、何ですか。教科書ですか」という質問を受け、一緒に本を探しにいたりすることもありました。

このように、いろいろなやりとりを繰り返しながら、予定していた2時間で、全員、本を選ぶことができました。選んだ本は、持って帰って直ぐに読みたいところですが、後日、学校に送られることになっています。手続きなどがあり、図書館の本棚に並ぶのは、大体一カ月後でしょうか。待ち遠しい一カ月となります。

試験勉強で疲れ、そして、真夏の暑い中でしたが、学生がシッカリとした行動をしてくれおかげで、無事にブックハンティングを終えることができました。今回の様子は、「図書だより」でも報告の予定です。また、次回のブックハンティングは、12月の後期中間試験の最終日午後に、1～3年生を対象に実施します。



2年目の「おもしろ科学体験フェスティバル」

教務主事補 大和 義昭



本校が米子高専と広島商船高専との三校合同で昨年6月に福山市のイトーヨーカドー福山店に併設の「ポートモール」で開催した「おもしろ科学体験フェスティバル」は、予想を上回る来場者があり、また来場していただいた皆様からは大変なご好評をいただきました。

しかしそれと同時に、私たちは市民の皆様に対してさらに高専のことをPRする必要性を再認識しました。「ロボコンは知っているけど、それ以外はあまり知らない、どこかちょっと特別な学校」というイメージを多くの方にもたれているように感じられたからです。

高専のことをもっと広く市民の皆様にも知らうため、昨年に続いて6/26に福山市の「ポートモール」でと、今年は6/19に呉市のれんが通り「ポポロ」前でも「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催しました。雨が心配された呉市でのフェスティバルは、私たちの予想を上回る500人以上の方に観覧してもらいました。また、福山市でのフェスティバルは昨年を上回る1000人以上の方に観覧してもらいました。

観覧していただいた方の多くは、買い物の途中にたまたま通りかかったというような方でしたが、わざわざ足を止めて私たちの展示を熱心にご覧いただいた方もたくさんおられました。「きっかけは偶然だったけど、思いがけず高専の良さを知った」なんてことが少しでもあれば良かったです。また一段と高専をPRする意欲が強まった2年目の「おもしろ科学体験フェスティバル」でした。

呉・芸南学の開設

教務主事補 佐々木 伸子

平成 23 年度より、「呉・芸南学」という新しい授業が始まりました。これは、「身近な地域をさまざまな切り口で掘り下げて魅力や可能性を発見しよう」という地域学の講義です。

呉高専で学ぶ学生たちに、専門技術だけでなく、呉という工業都市や瀬戸内の芸南地域のことも学んでもらおうと教養教育改善の取り組みのなかで準備が進められてきたものです。平成 20 年度から始められた呉・芸南地域高専大学連携センター事業の成果として開設されたことで、講義を担当するのは呉高専の教員だけではなく、広島商船高専と広島文化学園大学の教員や呉市関係者です。この地域についてそれぞれの専門分野からみた「呉・芸南学」を講義してもらう贅沢な授業となっています。



広島文化学園大学看護学部の教師陣も講義

講義の一例をあげると、「呉秀三と富士川游、医学と看護の歴史」、「呉のこれからの保健・医療・福祉」といった看護、福祉面からの講義や「江戸時代の阿賀・広の景観と新田開発」、「呉・芸南地方の方言と文化」、「明治の呉の都市形成と呉鎮守府等」といった歴史、文化に関する内容、自然環境面では、「呉の暑さ寒さと住民のライフスタイル」、「瀬戸内海的环境」、「呉・芸南地域の生態系」、社会的側面からは「瀬戸内海の公害と呉・芸南」、「島嶼部の交通を考える」、「呉・芸南地域の地盤と災害」等々幅広い分野、多様な角度からの講義が行われています。



呉・芸南地域の方言に関する講義

授業は 20 回の講義と 10 回のフィールドワークで構成されています。講義で得た多くの情報から必要な要素を取り出し、更に調べて新たな情報に組み立てる作業を、フィールドワークを通して体験的に学ぶ仕組みです。

また、遠方にいる講師の先生の授業をテレビ会議システムで配信して受講するのもこの授業の特徴の一つです。大崎上島にある広島商船高専で先生はカメラの前で講義をして、その姿を呉高専のスクリーンに映し出して授業を受けます。マイクもリアルタイムでつながっているので普段の授業と同様に質問ができます。



テレビ会議システムを使った授業風景



地域の人も聴講生として学生と一緒に受講中

この授業は地域からの関心も高く、聴講生としてシニア世代の二人の方が学生と一緒に学んでいます。お一人は、「仕事で海外経験が多く、自分の国や住んでいる地域のことを十分理解しておらず悔しい思いをした」と受講の動機を学生に紹介してくれました。

呉について学ぶことはこれから社会にでていく学生にとって貴重な経験になると思います。

球技大会

学生主事補 佐賀野 健

5月12日に球技大会が開催されました。しかし、警報が出るほどの雨が当日まで続き、体育館種目のみ（バレーボール、バスケットボール）の実施となりました。

写真は各競技の様子です。準決勝あたりの試合だと思いますが、かなりレベルの高い試合が行われています。優勝クラスはバレーボールが5年機械工学科、バスケットボールが4年建築学科でした。

ソフトボールとミニサッカーに出場予定の選手は残念でした。秋の体育祭に向けて準備しておいてください。また、バレーボールもバスケットボールもありますので、早々に負けてしまったクラスは体育の時間などでしっかり練習して体育祭に臨んでほしいと思います。



安全標語受賞者の表彰式

庶務室長 佐藤 等

7月14日（木）、本年度の安全標語受賞者の表彰式を校長室で執り行いました。

表彰式では、植田安全衛生委員会委員長、森脇教務主事及び横瀬先生の立会いの下、遠藤校長から受賞者3名の学生に対して、賞状が贈られました。

安全標語は、安全衛生に対する意識向上を図ることを目的として、安全衛生委員会が毎年4年生を対象に募集しているものです。

今年度は、102件の応募があり、安全衛生委員会委員による第1次選考で上位5位までを選考し、更に第2次選考で上位3位を選考した結果、本年度の安全標語として、電気情報工学科4年生 岩井太郎さんの「思いこみ心のゆるみが事故を呼ぶ」が選ばれました。

各受賞者

【 1 位 】 *平成 23 年度 安全標語

思いこみ心のゆるみが事故を呼ぶ

電気情報工学科 4年生 岩井太郎さん

【 2 位 】

慣れた作業，油断と過信が危険箇所

電気情報工学科 4年生 藤村 嶺さん

【 3 位 】

慣れた作業 見直す努力 忘れずに

電気情報工学科 4年生 北林 翔さん



着任のごあいさつ

人文社会系分野 蒲地 祐子



平成 23 年 4 月 1 日付で呉高専に着任した人文社会系分野講師（英語）の蒲地（かもち）祐子です。私は広島大学大学院在籍中の後半から昨年まで、10 年間程近隣の大学で英語教員を勤めて参りました。大学では 18 歳から 20 歳の年齢の学生に英会話、英作文、総合英語、e-learning 英語等の科目を教えていました。

呉高専に着任してからは、本科 1 年の 15 歳から専攻科 2 年の 22 歳という非常に多感で物事の吸収の早い学生に、英語の授業や部活、学生指導等の様々な局面で接していくことになりました。授業で接する呉高専生は、予想外に熱く、その元気さと頓智の効いた発言にまず驚かされました。あくまでクールを装いつつ、親しく接してくる彼らに、連日の授業の疲れも吹き飛びます。

着任して半年経った現在思うことは、私の授業を通じて、学生に英語と英語圏文化に対する興味を持ってもらいたいということです。私の専門はシェイクスピア研究ですが、これに携わるきっかけとして、二人の尊敬する先生との出会いがありました。学部時代にお世話になった山中猛士先生、大学院でご指導いただいた中村裕英先生です。両先生とも、私には到底及ばないヴィジョンを持たれた文学研究者です。私が師から受けたほどの影響を学生に及ぼすことは出来ないにしても、受け継ぐべきものを次の若い人たちに受け継いでいきたいと思っています。

教科以外にも、学生との対話や活動を通じ、切磋琢磨して学生と一緒に成長していきたいと思いません。どうぞよろしくお願します。

自然科学系分野 平松 直哉

平成 23 年 4 月より着任しました平松直哉です。教科は数学を担当しています。簡単な自己紹介は高専日誌でもしましたので、今回は自分が研究している内容についてお話ししたいと思います。

私は可換環論、特にコーエン・マコーレー加群について研究しています。可換環論には大きく分けて 2 つの面があります。代数幾何学におけるイデアル論的側面と表現論における加群論的側面です。代数幾何学と表現論の 2 側面が交錯し、美しい理論が作られるのがコーエン・マコーレー加群の理論です。私は主に圏論的視点からこの加群について調べています。



数学は難しく、実生活には直接結び付かない教科だと思われがちです。しかし数学は唯一つの答えに向って、定義から出発し、論理を積み重ねていくことで必ず解答を導くことができます。また日常生活において、映画やゲーム機などでも用いられる CG 技術には、皆さんが 2 年生、3 年生で学習する線形代数の理論が深く関係しています。様々な所で数学は活躍しています。

他の科目も数学と同様、積み重なっていく科目だと思います。最初の段階で学んだことが後々になって他のことと繋がり、大切になってきます。後になって「聞いてなかった」ってことがないように、一回一回を大切に勉強してほしいと思います。

環境都市工学分野 加納 誠二



本年4月1日付で本校環境都市工学科准教授に採用されました加納誠二です。

私は、呉市で生まれ、五番町小学校(現

呉中央小学校)、二河中学校(現呉中央中学校)、広高等学校、広島大学と、大学院卒業までずっと呉市で育ちました。そのため、この度、縁あって本校で教育に携われることを大変うれしく思っています。

1995年に大学院博士課程前期を修了した後は、京都にある舞鶴工業高等専門学校で助手として3年間、1998年からは広島大学工学部(大学院工学研究科も含め)で助手・助教として13年間勤めていました。

専門は地盤工学、防災学です。大学時代には地震による土構造物の被害軽減技術や土砂災害の予測手法などについて研究を行っていました。また最近では、微生物を使った新しい地盤改良技術の開発にも取り組んでいます。これは環境負荷が少なく、地中にCO₂を固定できる面白い技術です。

舞鶴高専に勤めていた経験から、高専は15歳から20歳まで(専攻科を含めると22歳まで)の年齢の幅の広い学生が自由闊達に活動しているユニークな教育システムで、上手に導いてあげれば非常に素晴らしい学生が育っていくと感じています。また、カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)での客員研究員や海外共同研究等の経験から、若い時に海外に出て、異文化に触れ、友人を作り、自分の視野を広げることが成長の上で重要だと考えています。学生にそのような機会を少しでも提供できるよう努めたいと考えています。

微力ではございますが、学生が大きく成長する貴重な時代に、少しでも良い刺激を与えられよう、教育・指導に努めて参りたいと存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

建築学分野 光井 周平



平成23年4月1日付で建築学分野・助教に着任致しました光井周平と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は、9年前に本校建築学科を卒業後、本校専攻科、広島大学を経て今回こうして母校で教育・研究活動に携わる機会を頂きました。大変光栄に思っております。

私が呉高専建築学科を志望したきっかけは、父が建築関連の仕事をしていたことと日本の城郭建築に興味を持っていたことです。日本史や城に興味を持ち始めたのは小学生の頃だったかと思いますが、書店で大人に交じって日本史関連の雑誌を見ていたことをよく覚えています。本校学生の中にも城好きだという人がいるようですので、いずれは同好会のような形で見学に行けたらよいと密かに考えております。手始めに今年度は卒研生と広島城を見に行こうかと考えておりますが、着いて来てくれるかやや心配です。

着任から約4ヶ月、授業や卒業研究、クラブ活動など学生と交流する機会が多くありますが、学生から教えられることが本当にたくさんあります。学生時代には経験しなかった寮に関わる機会も頂き、母校であるけれども日々新鮮な気持ちで過ごしております。初心を忘れず、学生が「呉高専に入って良かった」と思ってくれるように微力ながら努力したいと思ひます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

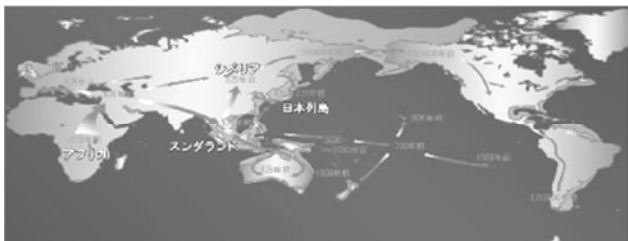
国際交流

それは遙か遠い昔、人類が交わした約束

国際交流室長 竹内 準一

現在の人類は、10万年前にアフリカ大陸で産声を上げ、グレートジャーニーと呼ばれる長旅の末、世界各地へと分布を広げていきました。住み着いた土地に長く隔離されたので、毛髪や肌の色も、背丈や骨格も異なりますが、生物学的にホモ・サピエンスという単一種です。身体的特徴だけでなく言語も文化も異なりますが、国際結婚して子孫を残すことができます。

つまり、人類は別の国というユニットを形成して暮らしてきましたが、元を辿れば共通の祖先から出発したものです。裏づけるがごとく、どの言語も否定語にはN（エヌ）が含まれることが多い。日本語の「ない」、英語「ノー」、フランス語「ノン」、ドイツ語「ナイン」、そしてロシア語「ニェット」などです。



人類のグレートジャーニー（国立科学博物館）

切り裂かれた魂のお互いが引き合うことをツイン・ソウルと呼びますが、人類はマルチプル・ソウルだとも言えます。その意味では、別々に分かれた人類が再び巡り会うことは、元から約束されていたことだったのかも知れません。

それを叶えさせてくれているのが、航空機や通信手段など科学技術の進歩です。過去のどの時代よりも人類が再び交じり合える夢を実現できる幸運な状況下に置かれています。

してみると、国際交流には必然性があるのです。

■視野を拓く国際交流行事や外国語学習

このような新しい視点から呉高専で催される各種交流行事や外国語学習の意義を是非、改めて噛み締めていただきたいと思います。決して億劫がらず嫌がらず、これまでの遺志を引き継いできた、それこそ無数の過去の人類の屍が連なった行進に想いを馳せていただきたいと思います。人類の長年の夢を果たした

力の源が、呉高専の標榜する科学技術力の結集なのです。

このような感覚を私は異国の地にて様々な国籍の人と出逢って、自然に体得してきました。このことをヒントにして感覚を研ぎ澄ませてさえいれば、呉高専の行事や日常を通じ類似体験を獲得することができると思います。



恒例の「国際交流パーティー」

人類がグレートジャーニーを経てきた末、言語や文化に多様性を獲得してきました。そこに違いはあれども優劣はありません。別の言語や文化を知るとは、視野が倍増することになるのです。

いま、この文を読んでいるあなたに試みに片方の目をつぶってみて欲しい。それが日本語の、日本だけの世界に留まる感覚です。いま一度、両目を見開いて欲しい。それが、国際化した後に新たに拓ける世界の、いわば擬似体験と思っていただいても差し支えないでしょう。



「国際交流パーティー」での記念写真

16年目を迎えた里親会

里親会代表 海生 郁子

3月末、別れを惜しむというより希望に満ちた表情の5年生を送り出し、安堵する間もなく里親会メンバーの話題は、次年度迎える新たな留学生の歓迎会のことになります。新しく呉に来る留学生に早く新しい生活に慣れ、充実した学校生活を送って欲しいと願いながら企画を練ります。

歓迎会は、ちょっぴり無礼講気味な雰囲気です。「ここでは何でも言って大丈夫！」サインを送るのが一番の目的。その後は、一年を通して様々な行事（お茶会・そうめん流し・野球観戦・秋の行楽・新年餅つき）を共に企画し、実施しながら、「いつも傍で見守っている人がいるんだよ。」と伝えたいと思っています。



2011年 4月 歓迎会

会を始めてからの16年間で、34名の留学生の卒業を祝ってきました。設立当初は、“弟”として可愛がってもらっていた我が家の息子達が年長者として留学生を気遣うようになっていることに月日の流れを感じます。こうして長く続けられたのも学校並びに関係各位の多大なご支援、ご協力の賜と厚く御礼を申し上げます。

今年は、新たに3家族が会員になって下さいました。卒業生が里帰りできる実家のような場、「皆さん、元気ですか。結婚するんです。」と報告できる場所が消滅しないよう活動を続けていければこんなに嬉しいことはありません。

4年目のエジソン・スクール

電気情報工学分野 横沼 実雄

電気に関するテーマについて、実験と工作で実体験してもらう市民セミナーとして始まったエジソン・スクールは、今年で4年目となりました。昨年までは、年6回のペースで開いてきましたが、今年からは5月末から12月まで毎月1回、年8回に増やして開く予定です。今までも少しずつ内容を変えてきたのですが、今回は工作内容を変更したり、新テーマを設けるなど例年より改善(?)を図っています。

例えば、第1回目の「電気を『作る』」のテーマでは、工作を「光るウチワ」から球状シリコン太陽電池を使用した「ソーラー・カー」へ変更しました。また、第2回目は新設テーマとして「電気を『蓄える』」を掲げ、「ミニEV」の製作を行いました。今後もテーマ、内容、工作など可能な限り改善しながら、より良い市民セミナーとしていきたいと考えています。より多くの人に、電気の楽しさと大事さを伝えたい、という思いだけは変わりません。



第1回「電気を『作る』」体温発電の実験の様子



第2回「電気を『蓄える』」ミニEV

呉高専市民セミナー 「実験で調べよう夏でも涼しい家」 を開催して

建築学分野 大和 義昭

今年も猛烈な暑さに見舞われた夏でした。全国各地で熱中症による救急搬送が相次いだようです。日本の夏は世界的にみても高温でかつ多湿であることが特徴です。このような夏をいかにして快適に乗り切るかは、我々日本人の永遠の課題かもしれません。

元来日本人は、冷暖房がなくとも、夏の暑さや冬の寒さをうまく乗り切るのが上手です。夏には打水をしたり風鈴を下げたり、冬には体を温める食事をとったり…。住宅の高気密・高断熱化やエアコンの普及が進みましたが、冷暖房にたよりすぎない昔ながらの工夫を凝らした生活に対する関心の高さは、今でも私たち日本人の中に確かに残っているようです。

本校建築学科に籍を置き、建築環境工学と建築設備を受け持っている者（私のことです）の責務として、昨年から小中学生に向けて、冷暖房によらずに昔ながらの工夫によって家のなかを涼しくすることを再発見してもらうことを目的として、「実験で調べよう夏でも涼しい家」というセミナーを開催しております。



健康や地球環境保護への関心の高まり、さらに原発不安による節電意

識の高まりなどから、今年のセミナーには多くの方に参加してもらいました。建築環境工学に関連する分野への関心の高さにうれしくなる反面、この分野の研究者の端くれとして大きな責任も感じました。今年は参加者のほとんどが小学校の生徒さんであったためか、実験材料の製作に少々手間取り、時間がかかってしまいました。肝心な実験にあまり時間を割けなかったことが大きな要改良点でしたが、この反省を生かし、来年以降も続けていきたいと思えます。

井伏鱒二の文学を読む

人文社会系分野 外村 彰

7月16日(土)に、市民セミナー「井伏鱒二の文学を読む」を、本校の視聴覚教室にて開講しました。福山生まれの井伏は「黒い



雨」がノーベル文学賞候補にもなった、広島県出身の文学者のなかではもっとも著名な小説家です。

今回はまず前半で井伏の生涯について説明し、詩と随筆を鑑賞しました。後半には初期の短篇小説「山椒魚」を、本文の改稿とからめて講読しました。

井伏は庶民的な視点から、市井の人たちの人生の哀歓を、けっして声高にならない筆致で描いた玄人好みの作家です。太宰治が師事したことでも知られています。酒と将棋と釣りを愛し、文章の彫琢ぶりは徹底していました。

そんな井伏は自分が詩人と呼ばれることをとても喜んだといいます。詩集は『厄除け詩集』一冊きりですが、「なだれ」「逸題」や、「人生足別離」を『『サヨナラ』ダケガ人生ダ』とした漢詩の意識「勸酒」など、人情の機微をとらえた詩作品が多くあります。

随筆では、井伏家の飼いネコが蝮の退治に一役かう「庭前」という話をとりあげました。文末語を単調にさせないといった表現への繊細な目配り、動物のうごきに対する冷徹な観察眼、感情におぼれない淡々としたまとめ方など、井伏が日本有数の名文家といわれる所以を説明しました。

昭和4年発表の「山椒魚」は、主人公の山椒魚がうっかり岩屋（棲家）に閉じ込められてしまい、やがて岩屋に入ってきた蛙を出られないようにし、対立を続けますが二年後に和解する、という内容でした。「幽閉」（大12）が原型で、昭和60年に井伏が和解の場面をカットした事実にもふれながら、さまざまな寓意をこめて読める小説であることを受講者に解説しました。

嶺陽寮自慢

機械工学科 5 年生

私がこの嶺陽寮に入ってから、四年と半年が過ぎました。ありきたりな表現ではありますが、過ぎてみれば本当にあつという間でした。先輩が卒業すれば後輩が入寮し、食堂の形式が変わり、机や椅子が新しくなり……少しずつ形を変えていってはいますが、結局、ここ嶺陽寮は相変わらず、私の第二のふるさとのようです。

女子寮では、現在 23 人の女子寮生と一緒に暮らしています。今年は新入寮生が多いこともあってか、多目的室や補食室といった共同施設からは、例年にも増して賑やかな声が聞こえてきます。寮生活は、家族と離れ価値観などの違う人間と生活を共にすることで、自主性や協調性を養う場ですが、こうして楽しく毎日が過ごせるという点でも、とてもいいものだと思います。学校でのクラスや部活動の場面だけでは時間も機会も足りずに気づけなかった、友達の知らない一面、年上・年下との付き合い方、気の配り方といったものを、自然と身体で学ぶことができるのです。勿論、通学生には通学生の利点も楽しみもありますが、実際に四年半体験した私が「お勧めしたい！」と思うくらいには、寮生活にもいいところが詰まっているはずです。

先日、学校見学会がありました。私は簡単な案内役を努めたのですが、子供を寮に入れるのは不安だと仰る親御さんが多かったことが印象的でした。今でこそ偉そうに寮生活の宣伝などしていますが、やはり最初は私も、そして両親も不安だったでしょう。私を寮に入れてくれ、遠くからサポートし続けてくれた両親に、改めて感謝したいと思う今日この頃です。



閉寮前の一斉清掃

寮で過ごして

環境都市工学科 4 年生

僕が呉高専の学生寮に入寮して三年と半年が経ちました。その三年半で当然不満に思うことや、寮を出たいと思うときはありました。しかしそれ以上に寮に入ってよかったとは思っています。まず寮では基本的に自分のことは自分でやらなければなりません、食事こそ食堂に行けば作ってもらいますが、洗濯や掃除などは誰かがやってくれるわけがないので、自然と自分でやるようになってきます。そうしていくうちに段々と今まで親に任せていたようなことが自分でやっていけるようになりました。

次に寮では、寮に入るまでの家族との生活とは違い、歳の近い寮生たちとの共同生活になります。だからこそ普段から他の人に迷惑をかけないようにしないとイケません。人に迷惑をかけない、それは簡単なように思えて、意外とできていないものです。そして家族とは違う、同じ年代の寮生だからこそ気づいてくれることはいっぱいあります。そうやって今まで自分では気づかなかったことを学ぶことによって人として成長することができます、実際に寮で生活することによって僕はいろいろなことを他の寮生から、教えられたり、気づかされたりして、少しかもしれないが成長できたと思います。また身近に同じ年代の人がいることは、勉強などの相談もしやすく、友達にもすぐ会えるという利点があります。だからこそ僕は寮に入ってよかったと思います。

寮生活をしていて、規則を守っていったり、家族以外の人との共同生活をしていくことが鬱陶しいと思うことはよくあります。だからといって、寮に入ったことを後悔はしていません。今までの寮生活で学んだことを大切にしながら、残りの一年半、寮生活を過ごしていこうと思います。

学生相談室から

学生相談室長 岩城 裕之

学生相談室では、学生の皆さんからのメンタルの相談を受けています。今年度は、カウンセラーの方が4名、月に8回ほどのペースでカウンセリングの機会を設けています。相談の内容といえば、勉強のこと、友人関係の悩み、家庭の相談まで、幅広く受けています。おそらく、多くの人にとって「心当たりのある」悩み事だと思います。

ところで、「カウンセリングを受けたところで何も解決しない」と思っている人もいるかもしれません。確かに、「すぐに解決」というウルトラCの答えは出てこないかもしれません。なぜなら、「自分の話を人に聞いてもらうことで、自分の思いをまとめること」がカウンセリングの最大の目標だからです。自分の置かれている状況を、言葉にする作業を通じて、さらにそれを聞いてもらうことで、安心感を得たり、自分の状況を客観視できたりすることも多いものです。そうやって思いを口にすることで、実は自分が気がついていなかったような事実が気がつくかもしれません。

緊張していると周りが見えにくくなります。同じように、悩みを抱えているときは、周りが見えにくくなっているものです。そんなとき、ちょっと周りを見る余裕を与えてやると、悩み事の解決方法は意外にシンプルだったりするのです。

何かと悩ましい青春時代。学生の皆さんには、学校生活を充実させるためにも、いや、魅力的な人間に育っていくためにも、ちょっと心が疲れた時は、学生相談室を利用してみてください。カウンセラーさんの来校日は、教室内の掲示と電子掲示板に、予約は保健室か学内の「学生相談室ホームページ」から。



この他にも、相談室の行事として、メンタルヘルスに関する講演会を行っています。

また、後期からは新たに部屋を準備する予定です。放課後など、カウンセリングを受けるほどでもない「ちょっとしたこと」を、話してみませんか？

カウンセラー講話

学生相談室 篠崎 律子



学生相談室では、毎年、本校のスクールカウンセラーの先生に講師をお願いして、学生を対象とした「カウンセラー講話」を実施しています。今年は1年生と3年生を対象とし、1年生には「心のトラブルとの付き合い方」と題して、また3年生には「世の中の仕組みとどうつき合っていくか」と題して、スクールカウンセラーの宮村先生に講演をいただきました。

1年生は高専に入学してはや半年、学校生活には慣れてきましたが、今度は学業や人間関係といった新たな問題を抱える時期でもあります。また3年生は、翌年になると「進路決定」という人生における大きな選択が待ち構えております。このように、それぞれの年代で直面する問題や不安を取り上げて、その解決策や対処方法をこのカウンセラー講話を通じて学んでもらいたいと思っています。

○第47回中国地区高等専門学校体育大会

期日 平成23年7月8(金)～10日(日)

会場 広島商船・津山高専・呉高専およびその周辺の競技場

成績

【団体戦】

順位 種目		優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
陸上競技		徳山	松江	呉	津山 宇部		米子	大島	広島
バレーボール男子		徳山	松江	呉 津山					
バレーボール女子		大島	松江	米子 広島					
柔道		呉	松江	津山	広島				
硬式野球		呉	広島	松江 徳山					
テニス		徳山	宇部	米子 津山					
バスケットボール 男子		松江	宇部	広島	米子				
バスケットボール 女子		米子	松江	徳山	宇部				
剣道		呉	徳山	松江	大島	津山	広島	米子	宇部
サッカー	A	徳山	松江						
	B	宇部	呉						
バドミントン		徳山	呉	松江 米子					
ソフトテニス		呉	宇部	松江	津山				
卓球		広島	米子	宇部 徳山					
水泳		松江	宇部	米子	大島	徳山	広島	津山	呉
ハンドボール		徳山	津山	松江 米子					



団体戦優勝：柔道部



団体戦優勝：剣道部



団体戦優勝：硬式野球部



団体戦優勝：ソフトテニス部

安全・安心な食堂運営を心がけています

寮食堂・学生食堂・売店 店長 志磨 徹也

本年4月より食堂の運営をさせていただくことになりました『西洋フード・コンパスグループ株式会社』と申します。

私共は全国の様々な地域で多方面にわたり食に関する事業をさせていただいている総合外食企業です。

「お客様（お子様）の喜ぶ顔が大好きです！」をモットーに美味しくて栄養バランスのとれたメニューと料理づくりに最善をつくし、心温まるお食事を楽しんでいただけるよう努力しております。

食材の選別はグループ全体で集中管理して厳しいチェック体制で「安全・安心」な食の提供に努めており、現場では温度管理・加熱方法、調理器具の消毒・滅菌方法や調理スタッフの健康管理に至るまで日々の食堂運営の中で実践させていただいております。

そしてお子様の健康・生命をお預かりしているという自覚を持ち、ご信頼頂ける業務運営に努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【個人戦】

陸上競技

【男子】

200m	3位	A 3	浦邊 裕樹
400m	2位	A 3	浦邊 裕樹
800m	3位	E 4	殿島 唯史
5,000m	3位	M 4	荒瀬 健太
110mH	3位	C 5	上坂 晃弘
4×400mR	2位	E 5	松本 涼
		C 2	八山 亮太
		C 5	上坂 晃弘
		A 3	浦邊 裕樹
走高跳	1位	M 2	中村 和真
やり投げ	2位	E 4	山田 修司

剣道

【男子】

	1位	M 5	廣瀬 昌司
	3位	M 4	佐藤 将吾

柔道

【男子】

73kg級	1位	A 5	泉本 裕大
90kg級	2位	M 4	小林 達哉

【女子】

63kg級	1位	C 2	多田 紀美花
-------	----	-----	--------

ソフトテニス

【男子】

ダブルス	2位	M 3	向田 直樹
		A 4	二鹿 潤一

呉高専日誌

呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校内外の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を日誌風に紹介しています。

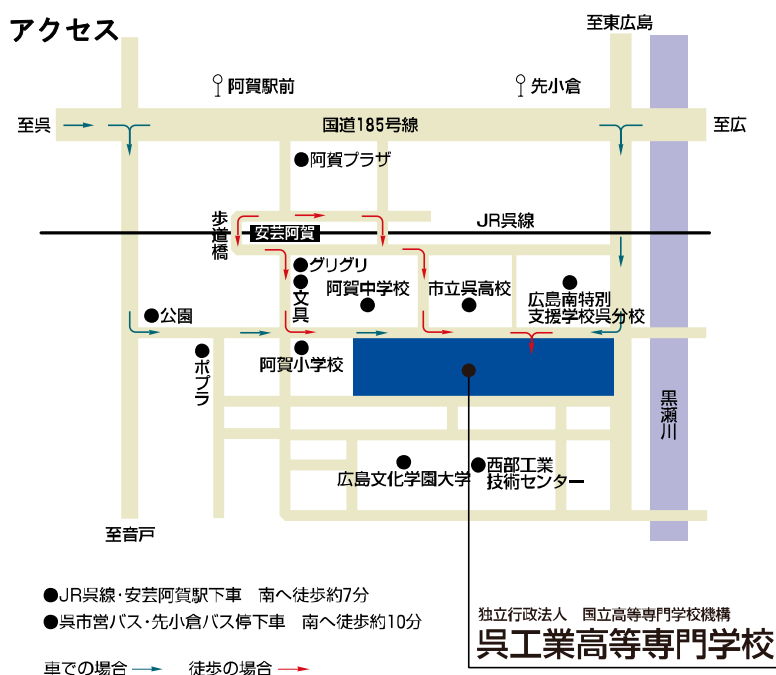
<http://www.kure-nct.ac.jp/>

各種行事

学校見学会 平成 23 年 11 月 5 日 (土) 呉工業高等専門学校

呉高専祭 平成 23 年 11 月 5 日(土), 6 日(日) 呉工業高等専門学校

文化行事 平成 23 年 12 月 6 日 (火)



編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506

呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964

E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp